

令和4年度 栃木県立宇都宮清陵高等学校 学校自己評価

教育目標 ○豊かな思考力に支えられる創造的な知性を持つ生徒の育成 ○強い意志力から生まれる自立的な精神を持つ生徒の育成 ○知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を持つ生徒の育成

目指す学校像 ○一人一人の進路実現に向けた、きめ細やかな進路指導と充実した学習指導に取り組む学校 ○規範意識を高め、社会性と自ら進んで行動する力を伸ばさせることに努める学校 ○特別活動の充実を図り、心身の健康を養い思いやりや協調性をもつ生徒を育成する学校 ○現代社会の変化に対応できる教養を高めるために、科学技術リテラシー教育を推進する学校

今年度の重点目標 1. 自主自律の態度を育てる活動を充実させ、学力の向上及び個性の伸長を図る 2. 他者と協働しながら目標に向かって挑戦させる活動を通し、愛校心を育てる

達成度 A:十分満足できる B:概ね満足できる C:満足できない D:努力を要する

※上記の4段階を基に、各領域において達成基準を作成

◇重点目標 1. 自主自律の態度を育てる活動を充実させ、学力の向上及び個性の伸長を図る

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題
部	教務 ○GIGA端末や電子黒板などICT機器の活用環境の向上に努める。 ○校務支援システムを活用し、校務運営の効率化円滑化を図る。	・GIGA端末、電子黒板など様々な機会に活用できた。 ・映像配信による集会や講演会が行われ、欠席連絡やアンケートのデジタル化、情報化が進んでいる。効果的な活用は様々な面でできた。	B	・情報共有や積極的な活用と仕事の効率化を徐々に進めていく。 ・タブレットを利用する機会をさらに増やす(各教科で有効的な活用法を検討)
	学習 ○情報を活用した学習及び他者と協働した学習の機会の創出と実践支援。 ○日々の学習サイクルの定着及び自主学習の実践指導。	・タブレットや電子黒板の活用は昨年より進んでいる。	B	・成績上位者の学力の伸長、下位者の底上げのためにできることを検討する。 ・学習環境を充実させるために、自習室の整備を進める。
	図書 ○進路研究や時期に応じた図書を充実させて利便性の向上を図る。 ○行事や利用の際のマナー遵守を働きかけ、読書の場・学びの場として適した環境整備に努める。	・図書館クエストや清陵祭の出展などの行事を開催することでできた。 ・希望購入図書の購入では一部図書委員に選定を任せれた。 ・昼休みを放課後の使用方法が浸透し来館者は多い。	B	・行事においては参加者の募集の仕方や広報を工夫したい。 ・利用時のマナーや手指の消毒の徹底などを意識させる必要がある。
	進路 ○自主自律の態度を育てる活動を充実させるように行事の見直しをする。 ○希望進路に向けて生徒が意欲的に学力を向上させることができるように環境を整える。	・全体として少しずつ、ノウハウが蓄積されて、改善されてきている。 ・コロナの影響があったが、進路行事をほぼ実施できた。 ・3年生の進路実現に向け面接・小論文等、全職員で指導した。 ・自主的に学習に向かう姿勢が生徒によって異なった。	B	・各部・各教科と連携し、授業第一の姿勢を育成する。 ・新しい入試制度、新教育課程などに対応した進路指導の見直しを行う。 ・ICT機器等を活用して進路研究を主体的に行わせる。
学年	1学年 ○学習方法の確立を図る。 ○基礎学力の定着と思考力の育成を図る。	・「朝の学習」に一部の生徒は参加できていないが、定期試験前に居残りをして、学習に取り組む学習意欲が高まった生徒が多く見られた。	B	・生徒一人ひとりの進路意識を高めて、その目標達成のために、継続的に努力できるように指導する。
	2学年 ○自学自習の習慣の確立を図る。 ○学習時間の確保を図る。 ○表現力や思考力の育成を図る。	・面談や総合的な探究の時間、長期休業中の課題などで進路を考えさせる機会を多く作ることができた。 ・今年度も調べ学習や発表等の活動にタブレットを有効活用できた。	B	・放課後の学習室利用などを促進してさらなる学力の向上を目指す。 ・学年、進路指導部等と連携して生徒が自分の進路目標に向かって頑張れるよう支援する。
	3学年 ○各自が設定した目標を達成できるよう、適切なアドバイスや指導をする。 ○多様な進路に対応できる指導体制の確立。	・自習室や図書室を利用し学習している生徒が見られた。 ・教員間で進路情報等を共有したことが、生徒の進路実現につながった。	B	・模試の時期や種類の見直し(10月に定期考査や模試が多い)。 ・生徒の進路に応じた指導について、学年を超えた教員間での連携を図る。
教科	国語 ○「校内漢字コンクール」への取り組みを促し、国語力の基礎となる漢字能力の育成を目指す	・平均点および合格者数はやや低調であり、とくに低学年での漢字力の低下が目立った。学年ごとにクラス平均点表彰と合格率表彰を創設し、各回で賞状を発行したことは成果が見える形となった。	B	・不合格者に対するフォローは必要だが、教科にとっても大きな負担となり、労力と効果のバランスをとる必要があった。
	地歴公民 ○四大受験までを見据え、授業に入試問題等を取り入れる。 ○主体的に問題を考える活動を取り入れる。	・定期テストや校内模試において大学入試問題を活用することが出来たが、主体的に取り組む生徒をもっと増やす必要がある。	B	・生徒の意欲向上につながるような大学入試問題の活用法を研究する必要がある。これだったらやれば出来ると思ってもらいたい。
	数学 ○主体的に考えたり、自分の考えを表現したりする活動を充実させる。 ○思考力・判断力・表現力を問う問題を取り入れ育成する。	・コロナ禍で学び合いの場が制限される場面があったが、授業展開を工夫し主体的に考えさせたり、自分の考えを表現させたりできた。 ・問題を精選し、指導法について研究することができた。	B	・新課程移行による単位数減少や、コロナ禍による授業時間数減少があり、年間指導計画通りに授業が進まない場面があった。指導内容を精選したり、指導方法を工夫して目標達成につなげていく。
	理科 ○実験・観察の過程や結果に基づく考察や図表・グラフを読み解く問題演習に取り組ませる。	・授業や実験の中で考えさせる機会を増やすことができた。 ・定期考査で実験結果から考察するような問題を出題できた。	B	・意欲的に自ら学ぶ姿勢をどのように身につけさせるか。実験・観察の時間と問題演習のバランスをどう取るかが課題である。
	芸術 ○生徒自身の思いや考えを積極的に自己表現し、達成感を味わえるような授業を展開する。	・作品の作成や、歌唱の取り組みで、自己の考えや思いを尊重しつつ、教員からのアドバイスを生かして創意工夫していく姿が昨年よりも向上した。	B	・音楽・美術・書道の選択生徒人数に極端な偏りがあるため、なるべく学年と教科間での調整を今年度以上に密に行いたい。
	英語 ○「英単・構文コンクール」と「Weekly Test」により、語彙力と文法知識の強化を図る。	・授業で次回範囲の音読をするなど、各学年ごとに生徒の実状に合わせて、工夫して実施した。	B	・「英単・構文コンクール」をWeekly Testに統合して、生徒の状況に応じた範囲設定をして、語彙力と文法知識の定着を授業で継続的に指導していく。

教科	家庭	○体験活動を通し、実生活において自分の価値観にあった選択ができるように応用力を身につけさせる。 ○ICTを効果的に活用する能力を高める。	・学座で学んだことを実習で定着させるという流れはできているが、生徒が今一つそれらを意識していないと感じる。ホームプロジェクトまでに学習する内容が少ないため、題材が広がらなかった。	B	・学習する単元の順番や教材を使用する時期を見直す。金融教育の教材や教科書の見直しも検討していきたい。
	科学技術	○科学の基礎知識・理論について実験・実習を通じて理解させ、科学と日常生活や自然・環境の問題との関連性を学ばせる。	・宇都宮大学の学生によるSDGsに関する講演ができた。 ・エネルギー教育支援事業、産業技術センター見学を通して生徒の興味関心と意識向上ができた。	B	・科学技術科の授業内容・実習内容の改訂。 ・SLTについて体育科、芸術科にも協力を拡充させたい。(今年度は家庭科が参加)
	情報	○個々のICTリテラシー能力の向上を図る。 ○身近な例や、具体的な事例を交えながら、情報モラルの重要性について学ばせる。	・PC、タブレットで情報処理・表現技術を習得し、モラルについて学んだ。 ・新課程情報Iにおいて、プログラミング学習教材等も導入し、科学的な理解を深める授業を実施できた。	B	・パソコン室が今年度で引き上げになり、GIGA端末の本格利用が必要になるとともに、端末の準備や管理についての指導に学校全体で力を入れていく必要がある。

◇重点目標 2. 他者と協働しながら目標に向かって挑戦させる活動を通し、愛校心を育てる

領域	具体的な教育活動	達成状況	達成度	次年度への課題	
部	生徒	○交通ルールの遵守・交通マナーの向上と交通事故の防止 ○ネットトラブルの防止に対する意識の向上	・多くの生徒は、落ち着いて服装も大きく乱さずによく過ごしている。 ・交通事故、ネットトラブルは例年よりも少ない。自らが気を付けようとしている様子も見られる。	B	・達成状況は「B」であるが、どちらも重大な事態を招く危険性を含んでいるので継続して指導していくことが望ましい。 ・愛校心育成のためにも、校則の見直し等の検討が必要か。
	特活	○各行事へ生徒が仲間とともに自主的・積極的に参加し、活発な行事になるよう支援していく。	・今年度は合唱コンクールや清陵祭(従来に近い開催)も実施できて、生徒の満足度も向上した。	B	・生徒が主体的に計画や実施ができる力を育みたい。 ・学校行事の充実と感染症対策の徹底の両立を図りたい。
	健康	○ゴミの分別の徹底を図るとともに、清掃活動への意識の高揚を図る。	・放送委員の清掃開始のアナウンスのおかげで、清掃分担区への移動は円滑になった。しかし、自主的に清掃活動を行うまでには至っていない。	B	・教職員の清掃分担区割り当てが複数箇所になることへの理解を得て、生徒が自主的に清掃活動を行えるように、指導の配慮、工夫の協力をお願いしたい。
	渉外	○保護者の本校の教育活動への理解と意識向上を図る。	・総会の役員・運営委員新旧役員会、球技大会での麦茶配布、学校祭での校章印かきまん販売ができた。	B	・PTA行事をコロナ禍の状況に応じて柔軟に対応・実施していく。行事内容も他校の事例を参考に拡充を図る。
学年	1学年	○こまめな指導を通して服装・頭髪の乱れ防止を図る。 ○時間厳守を徹底する。 ○清掃やHR活動等に主体的に関わる生徒を育成する。	・服装や頭髪については、生徒の考えも尊重し、円満な人間関係を構築したうえで指導ができた。 ・提出期限が守れない生徒が一定数いる。	B	・規範意識を高めたうえで、自ら集団における基準(ルール)を守ることを理解させたうえで、生徒主体の活動を増やしていく。
	2学年	○TPOに応じた容儀や振る舞いのできる生徒を育てる。 ○クラス、学年としての連帯感を高める。	・生徒が合唱コンクールや修学旅行などに積極的に参加し、クラスや学年でまとまって活動でき、学年の連帯感も高まった。 ・頭髪服装指導は、男女の区別なくクラス単位で実施した。	B	・最上級生として、また、進路実現に向かう学年として、制服の着こなしや言葉遣いなど、日ごろから意識できるよう学年全体で指導する。
	3学年	○社会的なモラルを身につけさせ、マナーの向上を図る。 ○学校行事や生徒会活動等においてリーダーとして活躍できる生徒を育てる。	・合唱コンクール、学校祭は初めてであったが、仲間とともに協力し合ってやり遂げる様子が見られた。	B	・進学、就職活動が本格化する前に、マナー講習等の実施をするとよい。 ・ボランティア等、校外での活動にも参加できる機会があるとよい。
教科	保健体育	○基本技能の反復練習とルールを理解させ、自らゲームを企画・運営できるように指導する。	・男子はゲームなどでは仲間と会話や指摘をしながら活動することができたが、女子は仲の良い友だちとのグループ意識が強く、卓球やバドミントンでの活動に支障が生じた。	B	・各種目の基本的な動作やルールを習得させる時間を今年度以上に確保することを心掛け、ゲームの楽しさを体験できるように留意したい。

◆保護者及び生徒アンケート

生徒アンケートでは、どの質問項目においても「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」の合計割合が80%を超える肯定的評価を得た。保護者アンケートでは、「分からない」の回答が増加している。次年度もコロナ感染症の影響が残ることを想定し保護者会・PTA活動の持ち方、HP等を含めた情報発信を工夫するなど改善を加える必要があることを示している。[重点目標1]に関しては、「自ら学ぶ態度の育成」の本校の取組が定着し評価を得ている。しかし昨年同様保護者及び教員の否定的評価(保護者は「わからない」を含む)が4分の1をしめるなど家庭学習時間は伸びていないと考えられる。[重点目標2]に関しては、生徒は学校生活全体に積極的・有意義に取り組んでいる姿が伺える。また、懸案であった「自ら(クラス、部活動等)の問題として解決に取り組む姿」(生徒と教員間で評価が分かれていた)が、多くの行事を工夫し実施できたことや継続的な支援・指導により3年連続評価が上がっている。

◆学校関係者評価

書面開催となり、現在意見を回収しています。まとも次第報告いたします。

◆重点目標における総合評価

評価基準	(1) 各達成度に対し、「A:7点」、「B:5点」、「C:3点」、「D:1点」を乗じて点数化する。				
	(2) 点数化した合計点を課題数で平均化(評価点)し下表に従い総合評価する。				
	総合評価	A	B	C	D
	評価点	6.0以上	5.9~4.0	3.9~2.0	2.0未満

重点目標1	重点目標2
「指導と評価の工夫」「放課後学習支援」「英検・漢検の学校会場での実施」「進路図書の実践」など、進路実現に向けた学習行動に繋げる支援・指導法の改善を引き続き行った。更に、個人レベルの実践を学校全体で共有し指導力向上に活かすことが課題である。また、進路意識の向上や家庭学習時間の確保など家庭との協力は欠かせない。今後、課題である情報発信を改善し開かれた学校づくりを進め信頼関係の構築に努めたい。また、「ICT機器の活用」は進んでいる。より質の高い学習の実践を支援できるよう、効果的な活用方法を研究していく必要がある。	他者と協働して活動していくために必要なマナーは概ね身に付いている。コロナ感染拡大がやや落ち着き、多くの行事が従来の形で実施できた。また、新たに生徒会企画として「特別メニューの昼食提供・文化部等の発表会」、学年行事として「学年球技大会」「総探の時間のグループ活動」など他者と活動できる場面を創出できた。その中で成功体験を味わえたことが「生徒が主体的に取り組み解決しよう」と思われる。今後「愛校心」の評価改善に繋がった要因の一つと思われる。今後も様々な機会を捉え適切な助言と支援を行っていく必要がある。
B (5.00)	B (5.00)